入場無料

阿南市文化会館特別企画

【阿南市人権教育・啓発市民講座】



詳しい情報はQRコードから

【まとめてアクセスできます】

題字 大窪 俊之

日時 2026年12月5日(土曜日) 15時 開演(開場は14時30分)
場所 阿南市文化会館 研修室(2階) 定員 200名(事前申し込み不要)

・講演『源泉の感情 阿南までの道のり』 講師 髙山 文彦(ノンフィクション作家)
・シンポジウム『北條民雄顕彰碑建立の意義』【司会 大窪 俊之】(徳島県立城北高等学校教諭)
ゲスト 佐々木 義登(四国大学文学部教授・徳島文学協会会長)/ 髙山 文彦
登壇者 小笠原 憲四郎(阿南市文化協会会長)

髙山 文彦 プロフィール



1958(昭和33)年3月、宮崎県高千穂町生まれ。法政大学文学部中退。『いのちの器』(1995)、『地獄の季節』(1998)、『「少年A」14歳の肖像』(同)などで知られるようになり、2000年ハンセン病を患いながら文学に命の炎を燃やした北條民雄と、惜しみなく彼への支援をつづけた川端康成の魂の交流を描いた『火花 北条民雄の生涯』(飛鳥新社刊、現在は角川文庫)で、第31回大宅壮一ノンフィクション賞と第22回講談社ノンフィクション賞を受賞。忘れられて久しかった北條民雄とハンセン病について、歴史的視点と文学史的視点から複合的に描いた初めての作品として、大きな反響を呼んだ。
その後もこの不条理な病の世界制圧に取り組む笹川陽平・日本財団会長(現名誉会長)に長年密着取材し、『宿命の子 笹川一族の神話』(2014小学館)につづき世界各国にわたる差別撤廃運動の成長と現地の人びとの痛みと希望を描いた『宿命の戦記』(2017同)を上梓。読売新聞読書委員、Numberノンフィクション賞選考委員、小学館ノンフィクション大賞選考委員を歴任した。

主催 阿南市文化会館、一般社団法人徳島新聞社、阿南市文化協会
共催 阿南市、阿南市教育委員会、阿南市人権教育協議会
企画協力 徳島文学協会・佐々木 義登

【お問い合わせ】
阿南市文化会館 〒774-0030 阿南市富岡町西池田135-1
mail yumehall.tomioka.anan@gmail.com
HP http://yumecosmo.jp/yume/
0884-21-0808